



神楽獅子 325×380×320



曲獅子 290×255×200



飾り獅子 255×230×210

### 獅子頭

- 神楽獅子…①顔：朱塗り木製 ②髪：白色 ③角：なし ④目：瞳黒、強膜金 ⑤眉：金と黒の渦雲 ⑥耳：木製黒、垂れ ⑦鼻：鼻頭高い ⑧唇：鼻と唇間に金線、赤色 ⑨歯：金色、獣歯、歯間山形 ⑩牙：なし ⑪製作：終戦直後個人から寄進 ⑫油単：緑地に朱と赤、麻
- 曲獅子…①顔：熊の毛貼り木製 ②髪：白色 ③角：なし ④目：瞳黒、虹彩金、強膜白 ⑤眉：金色二段雲 ⑥耳：熊の毛 ⑦鼻：横広 ⑧唇：薄い ⑨歯：金色、獣歯 ⑩牙：金4本 ⑪製作：昭和20年代後期 井波製 ⑫油単：薄緑地に白線、麻
- 飾り獅子…曲獅子の予備として製作

### 獅子舞

- 神楽獅子…本来は神楽大太鼓にメ太鼓とでの囃子であるが、普通の獅子太鼓とメ太鼓の代わりに獅子太鼓の縁を叩く。昔は、角の一斗杓を伏せて山野の岩場と想定させた（河合の稲越より伝承された。現在も稲越の林とよく似ている。）以前は金蔵獅子で金蔵とササラの舞いであったが途絶えた。衣裳も焼却された。
- 曲獅子…他の神社で舞わされているものと大差はない。

伝播 大笠白山神社より昭和10年代後半に習った。



金蔵・曲獅子 190×240×200

平成19年8月 新社殿造営前に競売  
現在個人所有

## 獅子頭

- 金蔵獅子…①顔：黒木製 ②髪：黒と白色 ③角：なし ④目：瞳黒、強膜金 ⑤眉：金と赤の渦巻線 ⑥耳：革製筒型 ⑦鼻：鼻頭丸 ⑧唇：薄い ⑨歯：金色、獣歯 ⑩牙：なし ⑪製作：不明 ⑫油単：紺地に白線、麻

## 獅子舞

- 金蔵獅子…金蔵は小学5～6年生位の男子少年が当たる。衣装は赤系統の派手な着物に軽さんを履きたすき掛け、背中に色紙の幣束を付け冠には山鳥の羽根を付けたのを被り、黒足袋を履いた姿で舞う。獅子は中学生や年少の青年男子が当たる。

- 曲獅子…ササラはなし。金蔵獅子と同じく前後2人で舞う。先輩青年が当たる、主として曲芸を行い、上手に出来たときは喝采を受ける。

(注) 金蔵・曲獅子共、舞い方・笛・太鼓の曲は 船津大津神社・山田津島神社と概ね同じである。

- 獅子舞の変遷…昭和30年頃までは金蔵・曲獅子がそれぞれ1組あり、祭り当日金蔵獅子は各家々を廻って舞い、獅子花(祝儀)をもらって歩いた。最後に公民館にて金蔵・曲獅子を舞った。金蔵獅子を舞うときに、金蔵のカカ(妻)という道化者が出てきて即興で金蔵を労ったり、獅子を追い払う仕草をして、面白おかしく笑わせる。直会(懇親会)が終わり還御に入る。行列が神社の下まで来ると、道行囃子の曲になり舞いながら社殿に入る。ここで2組(金蔵・曲)が舞って獅子は終わる。還御が終わって、祭りはお開きとなる。

- 神社の変遷…昭和30年代に入り若者が職を求めて転出、在住者は減少し獅子舞を受け継ぐ者もいなくなり、何時とはなしに途絶えた。昭和40年代に入り大笠集落全戸転出し無住となった。それでも神社はお守りしていたが、56豪雪・18豪雪等で神社の雪下ろしなど、これからの維持管理を考え再三協議の結果、木造社殿を取り壊し鉄筋コンクリートの新社殿(間口3.85m・奥行き3.80m・総面積14.63)を平成19年8月造営した。したがって必要最初限度の備品のみ残し、神楽・獅子舞関係等、競売処分した。

**伝播** 祖父(明治10年生まれ)の時代も近年の獅子舞と大差ないと聞いていたので明治以前から続いていたと考えられる。何処から何時ごろ習ったかなど分かっていない。

上山田  
津島神社



金蔵獅子 260×250×180



曲獅子 未計測



練習用獅子 310×245×235



保管獅子 250×240×190